◎流　れ

岩代須賀川町　服　部　貞　子

流れ〳〵てつきせぬ流れよ。汝れが代々は、さても長きことよ。さても睦ましきことよ。あゝ、我心のいつか變はりて捨てしすみれを、乘せてゆきし流れは、汝れが父か。わが袂をこぼれていでしほうづきを、すかしすかしつれゆきたりしは、汝が母ならむ。紅葉にかきたる秋の歌を、君がたつ土橋のもとまでもてゆきしは、汝れが兄ならむ。われにさゝやきかたらひて笑みゆきたりしは、汝が姉ならむ。あゝ、その父母兄姉の流れは、今いづくにかやすらへる。あゝ、弟妹の流れよ。ゆかばよろしうとこそつたへよ。さらはゆけ。靜かに、靜かに。さらば流れよ。

底本：「女子文壇」第二號　明治三十八（1905）年
入力：小林　徹
公開：令和三年三月二十一日
最終改訂：令和五年十一月十四日
リンク：水野仙子ホームページ